

## 平成 23 年度 第 3 回経営学教育 FD/ICT 活用研究委員会 議事概要

- I. 日時 : 平成 24 年 2 月 23 日 (木) 午後 4 時 30 分～午後 6 時 30 分
- II. 場所 : 私立大学情報教育協会 事務局 会議室
- III. 出席者: 大塚晴之委員長、佐々木利廣副委員長、岩井千明委員、佐藤修委員、  
安田英土委員  
(事務局) 井端事務局長、森下主幹、松本職員

### IV. 議事概要

1. 学士力の実現に求められる教育改善モデルについて、特に授業の点検・評価・改善に関して委員から提案された案をもとに議論が行われた。

以前からの変更点として、2 の授業デザインの各項目について ICT だけではなく対面と ICT の両方を基本にすることから、各項目に「対面と」という用語を追加することになった。

●授業モデル (その 1) については、4 年間を通じた学びの連続性のなかで、初年次教育としての授業モデルがその後他の科目とどのように連携し成果を生み出しているかを点検するような仕組みが必要である。授業評価委員会などの仕組みをつくるだけでは解決できない問題でもある。

●人格形成教育や哲学倫理教育にも深くかかわることから、教員と学生の長期継続的対面関係を担保できるような場が主にならざるをえない。大教室授業のなかで点検評価することは難しい。最も適切なのは少人数のゼミという場であり、授業モデルの点検評価はゼミ担当教員の評価を主にすることがベストである。実際にゼミ教員がゼミ生の授業履修履歴や成長についてある程度把握しているケースもある。

●すべての学生がゼミに所属していない現状では、従としてネット上のサイバーゼミ的仕組みのなかで意見交流を通じて点検評価を行うことも考える。

●社会人として企業に就職する前の学生段階では、授業モデル 1 で強調している社会的責任の重要性を認識し授業評価を行うことには限界がある。しかしアルバイトやインターンシップ、あるいは自らの生活態度のなかで関連づけることが可能である。自己との関連づけによる学生の評価は重要なポイント。

●授業の仕組みとして大学院生によるファシリテーターの重要性を指摘していることから、授業の点検評価についてもファシリテーターの評価を取り入れることも考える。

●最終的には授業モデル (その 1) の点検・評価・改善は以下のようにまとまった。  
この授業の点検・評価・改善は、学生による評価(自己との関連付け)、ファシリテーターの評価、初年次教育担当教員の評価、ゼミ担当教員の評価に加え、卒業生などの評価を基礎に対面やネット上で意見交流を行い、カリキュラムの在り方、授業運営方法等について

振り返りを行う。

●授業モデル(その2)も授業モデル(その1)と基本的は同じであり、重視するステイクホルダーが一部分異なるだけである。授業の仕組みの中で教員コンソーシアムによる教材開発や評価さらには外部の実務家との連携を重視していることから、授業モデル(その2)の点検評価も社会からの評価を考える。またグループ単位での授業であることから、グループ内での学生による自己評価と相互評価を考える。

●最終的には授業モデル(その2)の点検・評価・改善は以下のようにまとまった。

この授業の点検・評価・改善は、グループ内での学生による自己評価と相互評価、ゼミ担当教員の評価に加え、教員コンソーシアムや実務家などの社会の評価を基礎に対面やネット上で意見交流を行い、カリキュラムの在り方、授業運営方法等について振り返りを行う。

今後の予定

●次回の委員会については平成24年4月以降に開催し、授業モデルを実現するための教育力（教員の教育力、専門性）を中心に検討する予定。